



「気持ちを一つにジャンプ！」

6月から7月にかけて、小・中学校、幼稚園、保育園の運動会が行われました。写真は、6月11日に行われた弟子屈中学校体育大会での1コマです。学年を超えたチームメイトが、息を合わせて大縄跳びにチャレンジしました。

(関連記事20～21ページ)

むかしむか史 (310)

てしかがが歴史写真館 184



今ではすっかり穏やかな藻琴山
眼下に広がるのは屈斜路湖

秘められた関係性

今年から、国民の祝日が1日増えました。8月11日は「山の日」です。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ための日です。

私たちの町はカルデラによる外輪山に取り囲まれていることもあり、地域の約7割を山地が占めています。本町最高峰は、屈斜路湖の北側にそびえる藻琴山(標高1,000メートル)です。

先住民族アイヌの人たちは、藻琴山をトーエトクシベ(「湖の奥にある山」という意味)と名付けました。この山はわがままな振る舞いが多く、その横暴ぶりを見かねたオプタテシケ(屈斜路コタンの東側にある山)が立ち上がり、とうとう両山ともやりを持ち合っの戦いが始まったという、何ともスケールの大きい伝説が語り継がれています。カムイヌプリ(摩周岳)は非常に優しい心を持ち、双方の行く末を心配します。しかし戦いの際に、流れ弾ならぬ流れやりが自身の足に突き刺さったことで、この地で暮らすことが嫌になってしまい、一時は困後島まで逃げたのだとか。

突飛な発想に聞こえるかもしれませんが、アイヌの人たちは登場(人物)の位置関係や全容、行動時の教訓などをからめ、想像力豊かな感性で独自の世界観を創り出したのです。藻琴山の裂けたように見えるところは、やりが当たってえぐり取られたから。摩周岳の赤い岩肌は、やりが刺さって血が流れ出たためであり、爆裂火口は、腹を立ててズボッと飛び抜けた跡なのです。

それぞれの様子を思い浮かべながらあらためて山々を見渡すと、また違った姿に見えてくるのではないのでしょうか。

てしかがが郷土研究会(斎藤)

Public relations magazine

2016.8 No.744

てしかがが

主な内容

- 秋の総合健診の申し込みを受け付け…②
- 協力隊通信……………④
- 睡眠でストレスコントロール…………⑤
- 第81号町議会だより第2回定例会…⑥
- 防災ワンポイントコーナー…………⑬
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設…⑳

てしかがが 2016.8

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています